平成28年度 ★実施計画 個別評価シート（27年度事業の評価）

1. 事業の概要(Plan)

事業名	事業No.	305 廃棄物処分場管理運営事業									
総合計画	めざまちの姿	4	自然と環境に配慮したきれいなまち			担当部	環境部				
	基本計画【施策】	4-②資源循環型社会を構築する				担当課	ごみ減量課				
関連予算科目	一般	会計	04	款	衛生費	02	項	清掃費	01	目	塵芥処理費
	予算事業名	基本事業 (事業1)		廃棄物処分場管理運営費			細事業名 (事業2)		廃棄物処分場管理運営事業		
実施主体	市	実施方法	市が直接実施・運営			対象	全市民				
事業期間	開始年度	—		終了予定年度	—						
事業の目的	生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図るため、市民生活により排出される廃棄物を安定的に埋立処分する。										
事業の概要	笠子廃棄物処分場と新居一般廃棄物処分場に係る施設の一般維持管理(浸出水水質検査、分別推進、再資源化、廃棄物発生抑制)及び車両等の維持管理、周辺環境整備(地元対策)の実施。										

2. 事業の実績(Do)

事業実績	搬入・搬出に係る受付及び車両等の維持管理、廃棄物処理法第8条の3及び省令第1条の技術上の基準を遵守した運営、新居・湖西地区の地元対策を実施。笠子処分場内の借地の買収を行った。										
課題	施設等の老朽化対策、長寿命化計画の策定。埋立管理に伴う笠子廃棄物処分場内の借地買収、地元への理解・協力等。										
コスト	事業費(A)	当初予算額	平成26年度		平成27年度		平成28年度				
		決算(見込)額	80,132 千円		66,160 千円		53,942 千円				
	財源内訳	特定財源 ※国・県補助金など	0 千円		0 千円		14,316 千円				
		一般財源	78,719 千円		61,867 千円		39,626 千円				
	人件費(B)	15,096 千円		9,783 千円		9,581 千円					
	人工(職員数の内訳)	2.02 人		1.32 人		1.29 人					
	トータルコスト(A)+(B)	93,815 千円		71,650 千円		63,523 千円					
活動指標	内容		単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度				
	笠子・新居廃棄物処分場浸出水水質基準値遵守率	%	目標		100	100	100				
			実績		100	100					
		達成度		100.0%	100.0%						

3. 評価(Check)

総合判定	A 「充実」または「事業内容が概ね適切な事業」	
	《判定理由》 施設及び管理車両の法定点検等維持管理、処理水等の法定基準値を遵守した維持管理は必要であり、老朽化する設備の改修に予算等の投入が必要。	

4. 今後の事業の方向性 (Action)

今後の方向性	事業の方向性	継続
今後の方向性	今後の取組内容(課題に対する改善等)	水処理施設に伴う設備の老朽化を改善するとともに、雨水対策による負荷の軽減を図った。事務処理上の改善を図るため、廃棄物処分場の維持管理に係る費用を一本化。

平成28年度 ★実施計画 個別評価シート（27年度事業の評価）

1. 事業の概要(Plan)

事業名	事業No.	312 廃棄物対策事業									
総合計画	めざましまちの姿	4	自然と環境に配慮したきれいなまち		担当部	環境部					
	基本計画【施策】	4-②資源循環型社会を構築する			担当課	ごみ減量課					
関連予算科目	一般	会計	04	款	衛生費	02	項	清掃費	01	目	塵芥処理費
	予算事業名	基本事業 (事業1)	廃棄物対策費			細事業名 (事業2)	廃棄物対策事業				
実施主体	市	実施方法	一部又は全部委託		対象	全市民					
事業期間	開始年度	—		終了予定年度	—						
事業の目的	家庭系一般廃棄物を適正に収集し、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る。										
事業の概要	家庭系一般廃棄物の収集と運搬を委託して実施する。										

2. 事業の実績(Do)

事業実績	家庭系一般廃棄物の収集と運搬を委託して実施した。 可燃ごみ、不燃ごみ、剪定枝と草、ペットボトル、飲料水缶、ガラスびん、プラマーク品、白色トレイ、乾電池、スプレー缶、カセットボンベなど。 指定ゴミ袋の作成、資源物回収拠点整備、リサイクル推進事業、広報PR、容リ協、浜松市への可燃ごみ委託の実施。 新デザイン雑紙回収袋、生ごみ絞り器の作成、ふとん、畳、硬質プラスチックのリサイクル化を開始。										
課題	ごみの収集・運搬に多くの経費がかかる。ルール違反ごみ、不法投棄、ごみ減量対策等。										
コスト	事業費(A)	当初予算額	平成26年度		平成27年度		平成28年度				
		決算(見込)額	688,419 千円		655,787 千円		619,199 千円				
	財源内訳	特定財源 ※国・県補助金など	106,113 千円		102,394 千円		49,978 千円				
		一般財源	566,450 千円		546,088 千円		569,221 千円				
	人件費(B)	39,303 千円		40,819 千円		48,676 千円					
	人工(職員数の内訳)	5.27 人		5.51 人		6.58 人					
	トータルコスト(A)+(B)	711,866 千円		689,301 千円		667,875 千円					
活動指標	内容		単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度				
	すべてのごみステーションと資源物回収拠点のうち毎回回収している率→100%	%	目標	100		100	100				
			実績	100		100	100				
達成度	100.0%		100.0%		100.0%						

3. 評価(Check)

総合判定	A 「充実」または「事業内容が概ね適切な事業」	
	《判定理由》 すべてのごみステーションと資源物回収拠点から収集、運搬は必要であり、事業内容、実施方法ともに現行水準を維持していくことが適当である。ごみ減量のための各種分別方法の徹底、リサイクル項目の増加や指導・PRを推進していくことが適当である。	

4. 今後の事業の方向性 (Action)

今後の方向性	事業の方向性	継続
今後の方向性	今後の取組内容(課題に対する改善等)	ごみステーションの新設、移設、廃止については、地元要望に基づいてできるだけ実施した。事務処理上の改善を図るため、廃棄物対策に係る費用を一本化した。粗大ごみ戸別収集、雑紙・小型家電リサイクル、ルール違反ごみ削減のための監視カメラの設置などを実施した。 新雑紙回収袋、生ごみしぼり器の作成、新リサイクル品の売却を開始。

平成28年度 ★実施計画 個別評価シート（27年度事業の評価）

1. 事業の概要(Plan)

事業名	事業No.	320 ごみ処理施設運営事業									
総合計画	めざまちの姿	4	自然と環境に配慮したきれいなまち			担当部	環境部				
	基本計画【施策】	4-②資源循環型社会を構築する				担当課	ごみ減量課				
関連予算科目	一般	会計	04	款	衛生費	02	項	清掃費	01	目	塵芥処理費
	予算事業名	基本事業 (事業1)		ごみ処理施設管理運営費			細事業名 (事業2)		ごみ処理施設運営事業		
実施主体	市	実施方法	一部又は全部委託		対象	全市民					
事業期間	開始年度	—		終了予定年度	—						
事業の目的	法規定に基づく維持管理基準を遵守し資源循環型社会を実現するため、資源の有効な利用の確保を図る。										
事業の概要	環境センターで処理した可燃ごみ等を運搬するため、運搬車両を管理を行うとともに環境センターリサイクルプラザの管理及び運営を行う。										

2. 事業の実績(Do)

事業実績	運搬車両及び施設設備機器等に係る維持管理保守点検及び搬入された廃棄物の破碎・選別、資源化、運搬、処理を法定基準内で滞りなく行った。また、家庭系持込みの有料化をH25.10月から実施した。										
課題	設置が平成10年であったので、いろいろな機械が寿命となっている。 焼却をやめたことによる施設の有効活用。										
コスト	事業費(A)	当初予算額	平成26年度		平成27年度		平成28年度				
		決算(見込)額	281,995 千円		314,690 千円		313,550 千円				
	財源内訳	特定財源 ※国・県補助金など	0 千円		0 千円		36,325 千円				
		一般財源	272,214 千円		309,168 千円		277,225 千円				
	人件費(B)	21,756 千円		17,609 千円		17,246 千円					
	人工(職員数の内訳)	2.91 人		2.37 人		2.33 人					
	トータルコスト(A)+(B)	293,970 千円		326,777 千円		330,796 千円					
活動指標	内容		単位		平成26年度	平成27年度	平成28年度				
	H32リサイクル率目標41%	%	目標		36	37	40				
			実績		39	39					
		達成度		108.3%	105.4%						

3. 評価(Check)

総合判定	A 「充実」または「事業内容が概ね適切な事業」 《判定理由》 廃棄物処理施設の維持管理基準を遵守した運営は必要であり、今後、老朽化した機械の更新等にさらなる予算等の投入が必要となる。	

4. 今後の事業の方向性 (Action)

今後の方向性	事業の方向性	継続
今後の方向性	今後の取組内容(課題に対する改善等)	平成25年10月から家庭系持込みごみを有料化した。ごみの減量化をさらに進めるため、小型家電リサイクルを開始。事務処理上の改善を図るため、環境センターの運営、維持管理に係る費用を一本化した。